

【研究課題】肝悪性腫瘍における Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の肝細胞相の不均一性に着目した有用性の検討

実施責任者： 放射線診断・IVR 学講座 医員 國近 瑛樹

実施分担者： 放射線診断・IVR 学講座 教授 田中 利洋
放射線診断・IVR 学講座 准教授 西尾福 英之
中央放射線部 准教授 丸上 永晃
放射線診断・IVR 学講座 助教 南口 貴世介
総合画像診断センター 助教 太地 良佑
放射線診断・IVR 学講座 医員 立入 哲也
消化器・総合外科 教授 庄 雅之
消化器・総合外科 助教 安田 里司

【研究目的】肝細胞癌に対する治療は多岐に渡ります。手術加療だけでなく、近年では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬等の新しい薬剤が登場し、個別化治療の重要性が高まってきています。肝特異性造影剤を用いた MRI（以後、EOB-MRI）は、治療開始前評価の標準検査であり、EOB-MRI を用いて、より良い治療選択や治療成績向上の可能性を模索することが目的です。

【研究意義】2007 年に肝特異性造影剤として Gd-EOB-DTPA 造影剤が新たな MRI 造影剤として発売が開始されて以降、EOB-MRI は肝細胞癌の治療開始前評価の標準検査となっています。今回、EOB-MRI の肝細胞相に着目し、有用性について病理組織学的な視点を加えて評価し、肝細胞癌の適切な治療選択、治療成績向上の可能性を模索します。

【研究対象】研究対象となる患者様は、2008 年 4 月 01 日～2022 年 3 月 31 日の間に当院消化器・総合外科で肝細胞癌に対して手術加療が施行された約 270 人の方です。

【研究方法】2008 年 4 月 01 日～2022 年 3 月 31 日の間に当院消化器・総合外科で肝細胞癌に対して手術加療が施行された症例を抽出します。各症例の術前 EOB-MRI 画像を後方視的に検討し、必要な免疫組織化学染色を追加施行した上で、EOB-MRI 肝細胞相と病理組織学的所見との関係性を、臨床背景を元に評価・考察します。

【研究期間】この研究は、奈良県立医科大学の学長による実施承認日から 2025 年 3 月 31 日まで行う予定です。

【当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について】対象患者様が受ける利益・不利益はありません。

【個人情報の取り扱い】収集した情報は名前、住所など患者様を直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【その他】本研究は、本学の医の倫理審査委員会の承認および学長の許可を得て実施します。本研究は、過去に施行された検査を後方視的に検討するのみであり、この研究のために患者様に新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者様に謝礼はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

上記の研究の対象に該当する患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学附属病院 放射線・核医学科までご連絡ください。

【問い合わせ先】 國近 瑛樹（奈良県立医科大学附属病院 放射線・核医学科）
連絡先 0744-22-3051（代表）、3467（内線）